

研修だより

礎

発行所
いわき市教育委員会

発行責任者
教育長 吉田 尚



「自分を磨く」

いわき市教育委員会学校教育課
課長 塚本 英樹

「子どもの心の内がわかってないよ。先生本位で指導してるんじゃないの？」

これは、私が20代後半の頃、学級の生徒指導で悩み、先輩の先生に相談した際に言われた言葉です。初任が山間部の全校生30人余りの小規模校で、2校目でいきなり全校生が1200人を超える学年10クラスの大規模校に赴任し、人数で圧倒され、困難な状況を抱える生徒への指導に悪戦苦闘していた時期でした。そんな時にいただいたこの言葉は、自分の指導の在り方を考えるきっかけとなり、その後各地で開催される研究会に参加して様々な実践事例に触れたり、直接多くの先生方の話を聞いたりするようになりました。今から25年余り前の話です。

子どもたちは、日々成長し、その時その時で違った顔を見せるものです。それゆえに、子どもたちを教育する立場にある教員は、そうした子どもたちから学び、自分を磨く意識をもち続けることが必要になってきます。教員である以上、目の前の子どもたちの将来を思い、それぞれの年齢や経験に応じた自分磨きが求められると思います。ましてや「教育」という簡単には答えが出ない（ある意味答えのない）分野に携わっている教員であればこそ、絶えず自分を磨くことが大切になってくるのではないかと思います。

平成27年12月21日の中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」において、これからの時代の教員に求められ

る資質能力の中には、「不易とされてきた資質能力に加え、自律的に学ぶ姿勢をもち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力」、「常に探究心や学び続ける意識をもつこと」などが示されています。また、この答申では、社会が急速に変化する中、教員の資質向上が課題であり、継続的な研修を充実させていくための環境整備の必要性についても言及しています。

ところで、学校訪問で先生方の授業を参観した際、勉強することが楽しくて仕方がないという子どもたちの姿に出会うことがあります。先生を食い入るように見つめる姿や発問に対して我こそはという勢いで手を挙げる姿など、そうした授業には、学ぶ意欲に溢れる子どもたちの姿があります。その先生が投げかける言葉の一つ一つや丁寧な励ましの言葉を朱書きしてあるノートなどからは、決して付け焼き刃ではなく、日々努力を続け、自分を磨いているその先生の姿が容易に想像できません。さすがだなと思います。

私がそうでしたが、学習指導でも生徒指導でも、何かうまくいかないことがあった時に、自分のあり様に立ち返ることに意識がいかないことがあります。研修をはじめ、先輩や同僚、地域の方々など多くの人たちとの出会いなどを含め、様々な機会を捉えて自分を磨いていかなければと思うこの頃です。

視点A Activity

様々な体験活動・学習支援活動の推進

いわき防災サマーキャンプ事業は、防災をテーマとした体験学習プログラムを通して、本市の復興を担う子どもたちの防災意識を高め、他者を思いやるという目的で実施されています。この事業へ参加した感想を2名の先生に伺いました。

防災サマーキャンプに参加して

錦小学校 吉田 江里 先生

防災サマーキャンプは、NPOや公民館、地域住民、保護者、教員、ボランティアなど様々な立場の方々が参画し運営が行われていました。また、消防署や水道局の方々から話を聞いたり、給水車や濾過の様子を見たりと子どもたちは災害を想定した本物の体験をすることができていました。防災サマーキャンプは、子どもたちにとって普段はなかなか関わることでできない多くの大人と関わる機会であり、学校や学年が異なる児童同士が関わり合う場となっていました。このようなことは災害時だけでなく、普段の日常生活でも大切であり、「生きる力」の育成にもつながると感じました。

ここで、学んだことや感じたことをこれからの教育活動に生かしていきたいと思います。

養護教諭として思うこと

川部小学校 伊藤 友香 先生

今回の活動を通して、防災に関する知識や技術はもちろんのこと、災害時に地域一体となって助け合うことの重要性を学びました。学校では子どもの命を守ることが第一であり、災害発生時の対応について学校全体で把握し、万が一のために備えておくことが重要であると改めて感じました。また、このような災害時の模擬体験をしたり、継続して訓練を積んだりすることで、実際に災害が発生した際には、冷静に判断し迅速な対応をすることができると感じました。

養護教諭としては、今回の防災に関する知識や技能を生かしその状況に応じた柔軟で迅速な救命措置が行えるよう、実践を積み学び続けていきたいと思います。さらに災害発生後の心のケア、健康管理なども学び、学校全体での連携はもちろんのこと、関係機関とも連携を密にし、子どもの命を守っていききたいと思います。

「CAPS 研修会」

～次の世代をリードする「人財」育成に向けて～

いわき市では、次の世代をリードする「人財」育成へ向けて、キャリア教育の充実に力を入れています。

その一環として、平成26年度よりいわき市の全ての小学校5年生でスチューデント・シティー、中学校2年生でファイナンス・パークを実施し成果を上げております。今年度より、その2つのプログラムをつなぐ経済教育プログラム「CAPS（キャップス）」を、各小・中学校で実施できるよう、7月にCAPS研修会を開催しました。小学校教職員5名、中学校教職員3名、教育委員会関係者8名が参加し、その意義や有用性、さらには、実際にそのプログラムを体験し理解を深めました。

この研修に参加した先生方が講師となり、各学校において、小学校6年生や中学校1年生を対象に「CAPS（キャップス）」を実施し、学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させ、将来の社会的、職業的自立の基盤となる能力や態度の育成につなげることを目指しております。

次年度も、CAPSプログラム活用講座を計画しております。多くの先生方に参加いただけることを期待しております。

○ 受講者の感想

☆CAPSそのものが子どもたちに必要なものだと感じていたが、それを自校で実施できる研修に参加できたこと

は、大変ありがたいと感じた。(小学校教職員)
☆生徒たちがこのような経験をすることで、楽しく経済のしくみを学ぶことができると思った。ファイナンス・パークだけでなくこのような活動を取り入れることで経済に興味をもつ生徒も増えるので是非取り組んでみたい。

(中学校教職員)

☆ゲーム的要素があるため、つい本気になってしまうプログラムだった。子どもたちにやらせる際に大切なのは、グループを意図的に編成し、活発な話し合いになるように仕組むことだと思う。

(教育委員会関係者)



視点B Base 課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの推進

授業力向上講座Ⅲ(小学校理科)

～多面的に推論する「資質・能力」を鍛える理科の授業～
湯本第一中学校 吉田 夕佳 先生

筑波大学附属小学校の佐々木昭弘先生に、6年生の「水溶液の性質」の授業を実際にしていただきました。講義では、問題解決的な学習が論理的かつ科学的に展開し、子どもの追究意欲を高めることができる授業についてご指導いただきました。

○ 受講した理由

本年度は、論理的思考を育成するための学習指導の工夫を目標におき授業を進めてきました。本講座では、思考力・表現力を高める指導方法を実際に授業を参観して学ぶとともに、小学校・中学校の学習内容の系統性をふまえ、これからの指導に生かしたいと思い受講しました。

○ 講座に参加して

児童が技能を獲得していく姿やイラストやメタファーを活用して思考していく様子を拝見することができました。講義では、問題解決の2つの型として『ミステリー型』と『サスペンス型』について学び、これらの手法を授業の構想を練る時に生かしたいと思いました。そして、何より、児童の率直な疑問や現象に感動する表情に理科の学びの原点を見たように感じました。

○ 受講後の取組について

導入で、レディネスチェックを行い、小学校で身に付けてきたものや実態を把握し、中学校での学びにつなげられるように、より意識して授業を展開するようになりました。また、研修で学んだ問題解決型の授業の流れに言語活動を意図的に組み込むよう心がけています。

○ 目指す授業づくり

今回の研修で学んだことを生かせるように、改めて日々の授業の準備、実践、反省と改善を大切にしたいと思います。また、生徒一人ひとりが主体的に学ぶ授業づくりを行っていけるように努めたいです。

教育課題研修

～学校組織マネジメント講座を受講して～
藤間中学校 竹元 俊文 先生

今年度はミドルリーダー研修や教員免許状更新講習など、各分野の専門家からご指導をいただく機会が多く、充実した一年になりました。数々の研修を通して、頭の片隅にあった知識の再確認ができたり、新しい考えや手法を知ることができたりしました。本講座でも、まず「やってみせ、言って聞かせてさせてみて、誉めてやらねば人は動かじ。」という山本五十六の言葉の引用があり、人を教える立場の人間として大事な言葉だと再認識しました。

本講座の主題は、コーチングによる相手とのかわり方で、講師の先生の巧みな話術や参加者同士の活発な演習により、終始和やかな雰囲気です。まずコーチングの心構えとして、「相手に関心をもつ」ということ、技術として、「ほめる」「話を聞く」「アドバイスをする」があり、アドバイスと言っても、こちらから目標や解決策を提示するものではなく、話している相手から答えを引き出すといった技術です。文字では容易に理解できそうですが、実際にやってみると、上手く言葉を返せなかったり、答えを引き出せなかったりと、難しさも知ることができました。一番感銘を受けたのは、講師の先生と指導主事の先生によるコーチングの模擬実践です。もちろん事前の打ち合わせもなく始まったのですが、講師の先生の話のもっていき方がとても自然かつ的を射たもので、なるほどコーチングとはこういうものかと感心いたしました。まさに「やってみせ」の実演でした。

研修を終えて、自分の教育活動が、校内組織の活性化に少しでも貢献できるように日々実践していきたいと思うようになりました。「問いかけて、考えさせて、気付かせて、認めてやらねば、人は動かじ。」これは講師の先生が話されたもので、先の「やってみせ」の言葉とともに肝に銘じていきたいと思っています。

学校司書を活用した学校図書館機能の向上、読書活動や学習支援の充実に向けて

～ 学校司書研修の充実～

学校図書館法の一部改正により「学校図書館に学校司書を置くこと」が努力事項に掲げられました。本市でも学校司書設置事業を推進し、今年度、市内の全小・中学校に学校司書を配置することができました。市教育委員会では、学校司書の資質・能力の向上に向けて、年間16回の全体研修を行ってきました。

- ・年度当初、サービスと勤務や学校司書としての業務内容についての研修
 - ・児童生徒にとって親しみやすい図書館の構築に関する研修
 - ・教育課程と国語科の教科書を用いての授業支援に関する研修
 - ・特別な支援を要する児童生徒への対応に関する研修
 - ・いわき総合図書館の協力を得て、本の分類や配架、製本や修理などの専門的な研修
 - ・読み聞かせやブックトークなどの実践的な研修
- この他、本年度は「県学校図書館研修大会いわき大会」にも参加し、先進的で具体的な取組について学ぶことができました。



各学校においては、学校図書館長である校長先生の指導のもと、先生方と学校司書、ボランティアの方が協力して、十進分類法による配架や、季節感のある掲示物、おすすめの本コーナーを設置するなど、児童生徒にとって、より使いやすく魅力ある学校図書館の環境づくりが進められ、「読書センター」としての機能は大きく向上してきました。

さらに、今後は、「学習・情報センター」としての機能の向上に向けての研修を充実させ、各学校における学校司書を活用した授業実践等を積み重ねていくことで、児童生徒の学力向上につなげていきたいと思っております。

～ 各学校での取組～

<長倉小学校>

長年の優れた図書館教育の取組により、本年度「子どもの読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けました。司書教諭・学校司書・ボランティアの役割の明確化、活動内容に応じて児童が選んで利用できる4つの図書館の整備、年間計画に図書館の機能を生かした授業を位置付け学校全体で取り組んでいることなど、先進的な取組が行われています。



<内町小学校>

国語科において担任と学校司書とがT・Tで授業を行いました。

調べ学習において、調べたい本の分類や配架場所、索引を元に調べる方法などを、学校司書が個別に支援しました。支援の状況を授業者に伝えることで、児童の見取りにも役立ちました。

学校司書の短い勤務時間の中で、効率的に連携を図り、有効に活用していくことについて、実践的な研究を積み重ねています。



<内郷第二中学校>

夏休みに職員作業により図書室の様様替えを行いました。

本棚の移動により、空間的な広がり生まれ、開放的な図書室になりました。また、企画展示のコーナーや季節の掲示を整えることで、生徒が興味をもち、入りやすい図書室へと変化し、利用者数も増えました。

2年生の総合的な学習の時間では、学区内の宮幼稚園・宮小学校の園児・児童に、絵本の読み聞かせを行いました。小さな聞き手のかわいらしい反応に、生徒たちは喜びを感じ、以前よりも読書意欲が高まり、学校図書館における貸出冊数も増えました。



発達障がい教育講座

～児童生徒の困り感を理解し、支援するために～

平第二小学校 関端 由美 先生
中央台北小学校 吉野 珠恵 先生

「通常学級における特別支援教育の進め方」について、早稲田大学大学院教職研究科教授、高橋あつ子先生に講義をしていただきました。研修で学んだことをどのように実践に生かしているか、2名の先生にお話を伺いました。

○研修で学んだこと

子どもの見方を、いろいろな方法で柔軟且つ具体的に説明していただきました。子どもの状態から背景を探り、豊かな仮説を立てることが体験できた気がします。その子の学びに興味をもつことが、生徒指導や教科指導に、そして学力向上にもつながることを改めて強く思いました。（吉野）

今年度は、本校から5名の先生と一緒に参加し、困っている児童の背景を共有できました。かかわり方や必要な教材など、「あの子には」、「この子には」と、率直に話し合うことができました。困っている児童の実態把握は、教育的ニーズや特性などを観点別に観ていくことで、支援の在り方が見えていくことを知りました。（関端）

○受講後の取組と子どもたちの変化について

チーム力を活用して、かかわっている先生方の実態把握を生かしながら学級の中の一人を掘り下げてみると、他にも救われる子どもがいることを伝えるようにしました。（吉野）

「文字のパーツは見るが、とめ、はらいは注意しない」というお話を生かしました。実践した職員の成果として、注意しないようになってから、宿題を破ったり、丸めたりしていた児童が、宿題を提出できるようになったそうです。（関端）

○目指す教師像

子どもが先生に合わせるのではなく、先生が柔軟に子どもの学び方に合う授業をすることができるような豊かな仮説を立て、支援できるようにになりたいです。（吉野）

個別の指導計画を生かしたり、チームで授業をつくり上げたりする支援に取り組み、二次障がいや苦しんでいる児童がいなくなることを期待しています。「困った子」とレッテルを貼られる前に、通常の学級で自信をもち生きていける子どもを育てるために、教科で活用できるユニバーサルデザインの考えなどを学んでいきたいです。（関端）

特別支援学級等教育講座

～一人一人の教育的ニーズに応じた
支援の在り方と授業づくり～

特別支援学級等参観講座は、小名浜第三小学校の巖育子先生の授業を参観し、授業をもとに、「支援による児童の変容」に焦点を当て、「学級づくり・授業づくり」について協議しました。教育的ニーズに応じた支援の在り方を実感するよい機会となりました。

授業の題材名は、日常生活の指導での「栄養バランスのよい食事を知ろう」でした。子どもたちの教育的ニーズをしっかりと捉えた指導、組織的支援は、学びの質のよさとして参観された先生方に強く印象付けられました。



○受講者の感想

子どもの実態とスタートラインは大きく違ったのですが、ここまで引き上げている技術や信念にブレのないのを感じます。目の前の子どもたちにしっかりと向き合い、適切な指導を探していきたいと思います。

（小学校）

支援は子どもの数だけあるのだなと改めて思いました。そして、支援学級の先生方が、皆さん熱い気持ちをもって子どもに向かい合っているのを感じ、とても励みになりました。（小学校）

今回の授業参観と協議では、一人一人に合わせた授業工夫、発問等の必要性を感じました。また、特別支援学級の先生方はとても細かく、丁寧に児童を理解し、将来を見据えた指導をされていると感じました。中学校として、小学校の先生たちの熱い思いや願いを汲み取って、生徒にとってのよりよい指導を研究していかなくはならないと再確認するとともに、本日学んだことを少しでも実践に生かしていくために努力していきたいです。

（中学校）

生徒指導研修

～生徒指導主事研修を受講して～

泉中学校 大井川 英敏 先生

今年度、経験者研修Ⅱの職能研修として過日、生徒指導主事研修②を受講させていただきました。

「子どもを取り巻くインターネット環境」の講義においては、茨城県メディア教育指導員の川野辺先生から乳幼児にネットデビューをする子どもたちが増えていることや、子どもの行動から生まれるトラブル（ネットいじめなどの違法行為、個人情報流出、LINEによるもつれ）、さらに子どもがスマホを使用すると脳から快感物質が分泌されネット依存になり、生活習慣に影響を与えていることなどを教えていただきました。インターネット環境はこれからもますます進化し続けていきますので、教員としてすべきことは、自分の未来と命を守るために、どのように行動すべきかを自分で判断して自分で決断できる子どもを育てることが大切であり、そのためには、教員がインターネット環境や機器に関する知識を高め、危険性を予測した指導を継続することはもちろんのこと、大人（親）が社会規範を高めていく必要があると改めて感じました。

柳沼教育部次長の「消費者教育とネットトラブル」の講義では、ネットトラブル（ゲームへの高額利用、アダルトサイトでのトラブルなど）による被害から生徒を守るために、教師が新しいインターネット用語やアプリに目を向け、それを学習していく姿勢が大切であると学びました。

いわき市教育委員会学校教育課指導主事の鯨岡先生の講義では、夏季休業中の生活において、「大丈夫」の先に隠れている危険について想定しておくことが事故防止につながり、自分で自分の命を守るために必要な要素であることを実感しました。3人の先生方のお話を聴いて、「教師は生徒理解にはじまり、生徒理解に終わる。すべては生徒のために。」という、初任者研修で教えていただいた言葉を思い出しました。今後も初心を忘れず、ミドルリーダーとしての自覚をもち、今まで以上に生徒一人一人と本気で向き合い、社会人になるために必要な資質（挨拶、礼儀、感謝の心、忍耐力、責任感など）の向上に努め、人間力の高い生徒の育成に精進して参りたいと思います。

不登校対策

～チャレンジホームの活動を通して～

現在、いわき市には平、小名浜、磐崎、植田の4カ所にチャレンジホーム（適応指導教室）が設置されています。チャレンジホームは、「いわき市内の小・中学校に在籍する児童生徒で、不登校の状態にあり、本人、保護者が入級を希望する者」を対象とし、学校への復帰を支援することを目的としています。

○学習支援や教育相談の取組

入級している児童・生徒は、不登校に至った期間や状況によって一人ひとりの学習意欲や進度、定着状況等が大きく異なっています。これらの実態を踏まえ、一人ひとりの自己課題について、助言や賞賛、励まし等を行い、温かく見守ることを基本とした個別学習の支援を継続しています。また、季節や時事の話題、新聞のコラム等を活用して思考力や判断力、表現力、コミュニケーション能力の基礎をはぐくむ共同学習を適宜実施しています。さらに、学級担任や保護者との教育相談を定期的実施し、情報の交換や共有化を通して児童・生徒のさらなる理解に努めています。

これらの学習や教育相談を通して、児童・生徒が少しでも自信を取り戻し、学校復帰に向けての足がかりとなることが私たちの願いです。

○合同行事(体験活動)の取組

チャレンジホームでは、幼稚園訪問や海浜自然の家での体験学習、職業体験、専門学校訪問、調理実習等の合同行事（体験活動）を年間計画に位置付け、月1回程度実施しています。今後も学校や保護者、関係機関の皆様のご理解、ご協力のもと、4つのホームの児童・生徒が集まり、自分の役割や仲間とのかかわりを意識しながら、活動の楽しさや喜び、達成感等を味わうことによって、集団活動（生活）への意欲をじっくりと高める活動を実施してまいります。



調理実習



職業体験

教職3年次研修を終えて

今年度より始まりました教職3年次研修。「教科の指導技術向上」を目的に、37名を対象として要請訪問の形式で研修が実施されました。

研修者の中から、2名の先生にお話を伺いました。



草野小学校 佐藤 由季先生

教諭となり3年目を迎えました。一日を過ごすことに精一杯だった1年目と比べると、気持ちと時間に余裕が生まれ、見通しをもってさまざまな活動に臨むことができるようになってきたと感じます。力を入れて取り組みたい教科がはっきりし、生活科・理科を研究したいという軸足が定まったことも大きいように思います。

また、3年次研修の要請訪問で生活科の研究授業を行ったことは、自分の実践を振り返る契機となりました。きめ細やかな指導・助言から改善点が明確になり、子どもの見取り・価値付けの重要さを強く感じた実り多き研修となりました。

多くの先生方、子どもたちに支えられて今の自分があることを感じる3年目。これからも謙虚さと感謝の気持ちをもって、仕事に臨むとともに、目の前の子どもたちに全力で向き合っていきたいと思います。

錦中学校 深沢 正人先生

2年前、初任者として採用となり、その喜びと気負いを抱えて第一歩を踏み出しました。吸収しなければならぬことの多さで、余裕なく過ごしてきた2年間に比べ、今年度は心のゆとりが出てきました。指導の仕方や仕事の処理に対し、改善策を考え、視野を広げて見ようとする「心のゆとり」です。とはいえ、悩んだり、力量のなさを痛感したりする日々。3年次研修として、授業研究でのご指導や指導力向上のための学びの機会をいただけたことは、本当にありがたいことでした。

3年目を終えようとしている今、教師としての自分磨きがいかに大切かを、心から感じています。初心を忘れず、この3年間で感じ得た思いを忘れず、今後も、自分が目指す教師像に近づけるように努力し続けたいと思います。

教師力upセミナー

いわき市教育委員会では、いわき市の教育を担う教員に「教員としての使命感・責任感、教育的愛情」「専門職としての高度な知識・技能、探究力、主体的に学び続ける力」「総合的な人間力」の3つの資質・能力をはぐくむために、研修体系に記した研修の他に「いわき教師力upセミナー」を開催しています。自主研究団体の協力を得て、教員の多種多様な教育課題等に対する探究心を満足させ、主体的に学び合う場と機会を提供しています。

<参加者の感想>

- ☆初めての参加だったが、とても楽しく実験方法を勉強できた。
- ☆話や内容がおもしろく、これから使えるコツや対応方法も知ることができた。
- ☆今後に生かせる内容だった。初めて知ることばかりで、とても新鮮だった。
- ☆これから、音楽祭に向けての本格的な練習に入るの、とても参考になった。
- ☆具体的で分かりやすく、授業にすぐに使えるものを紹介していただき、よかった。
- ☆DVDで小学3・4年生の縄跳びの様子を見たので、自分もそのように育成していきたい。
- ☆日々の授業の中で悩んでいることについて、自分が知らなかったことを学ぶことができた。

また、豊かな人間性やコミュニケーション能力の向上のために、一般社団法人チームスキル研究所の田中信氏を講師に、「特別教師力upセミナー」を学校単位で開催することができました。

<参加者の感想>

- ☆自分を知る。他人を認める。職場での人間関係に生かせると思った。
- ☆自分の思考の傾向をよく知ることができた。職場で、相手のタイプを知って対応することの大切さがよく分かった。

来年度も共に学び合う教員をサポートしてまいります。



ひろば

～平成29年度 研修の計画～

平成29年度の研修では、次期学習指導要領の方向性を踏まえ、授業改善の意識や授業力向上、課題に対応する力などの育成を重視し、教育現場における教育課題解決に向けた研修の充実を図るとともに、教育公務員特例法の一部改正に伴う中堅教諭等資質向上研修の立ち上げに向け、各ステージにおいて求められる資質・能力の育成を目指した研修内容の構成に視点を置いて計画を立てました。主な研修、講座の新設及び内容の変更は次のとおりです。(詳細は、平成29年度研修計画をご覧ください)

基本研修Ⅰ

- 初任者研修・新規採用養護教諭研修・新規採用学校栄養職員研修、経験者研修Ⅱ・Ⅲ、ミドルリーダー養成研修、養護教諭経験者研修Ⅱは通常どおり実施します。
- 経験者研修Ⅰ、養護教諭経験者研修Ⅰについては、県内の採用がなかった年度にあたるためH29年度は実施せずH30年度に実施します。
- H28年度に初任者研修を修了した教諭を対象に教職2年次研修を実施します。校内研修30時間(課題研究等)、校外研修3日間を行います。
- 若手教員育成の視点から、採用後2年を経過した教諭を対象に、教職3年次研修を実施します。校内における研修1日(研究授業)、校外における研修を1日行います。
- 学校栄養職員経験者研修Ⅱ、養護教諭経験者研修Ⅲは、隔年実施のため、H29年度は実施せずH30年度に実施します。
- 学校栄養職員経験者研修Ⅰ・Ⅲは隔年実施のためH28・29年度該当者について実施します。

基本研修Ⅱ(職能研修)

- 「総合的な学習担当研修①・②」
4月に小学5年、中学2年担当の教員を対象に、体験学習プログラムの進め方を研修します。
- 「小学校外国語活動担当研修」
小学校における外国語活動の充実に向け、小学校外国語活動担当研修を新設し、学校における指導体制の充実と教職員の指導力向上を図ることを目的として行います。

専門研修

- 教育課題研修
・「学校組織マネジメント講座」
学校組織における若手の育成や組織の活性化に向けた実践的指導力と資質の向上を目的として実施します。H29年度は「学校課題への対応」がテーマです。ミドルリーダー養成研修該当者は悉皆となります。

・「CAPSプログラム活用講座」

経済体験型プログラムや将来設計学習プログラムについて、指導者自らがワークショップを体験したり、活動の意義を理解したりし、キャリア教育の実施に向け指導内容に見通しがもてるようにするための講座です。

・「道徳教育実践講座」

小学校はH30年度から、中学校はH31年度から道徳が「特別の教科である道徳」となります。実際に指導する上でどのように指導していったらよいか、今後の指導の在り方を実際の授業を通して学ぶ場となるようにしたいと思います。

○ 教科研修

・「授業力向上講座Ⅰ・Ⅱ(基礎・実践)」

夏季休業中を中心としながら各教科実施します。ただし、小学校外国語活動と中学校英語は、文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」に基づき、英語教育推進リーダー伝達講習を連続2日間行います。この講習は、全ての中学校英語教諭、及び全ての小学校の外国語活動を担当する教諭1名が受講する必要があります。H29年度の中学校教諭対象者・小学校対象校は後日お知らせします。

・「授業力向上講座Ⅲ(応用)」

思考力・判断力・表現力を高める授業づくりに向けて、筑波大学附属小・中学校の先生方の実践に基づいた講義・演習を実施します。小・中学校での飛び込み授業を通じた研修も計画しています。H29年度の実施教科は次のとおりです。

小学校：国語 算数 理科 社会 図工 体育
外国語活動
中学校：国語 数学 理科 社会 英語

教員免許状更新講習

- 夏季休業中に行う講座の中から14講座(教科研修9講座、教育課題研修1講座、特別支援教育研修1講座、生徒指導研修3講座)を選択講習として開設します。